

復旧支援や今後の安全なまちづくりに資することはもちろんですが、津波で流されてしまった市街空間のアーカイヴィングにも GIS は寄与できるのではないかと考えます。地震単独の倒壊被害と異なり、今回の震災では津波によって、空間に根ざした生活の記憶が根こそぎ奪われたことで、地域の人々はきわめて大きな喪失感を抱えているものと思われます。今後の復興まちづくりが、もとの市街と同じ場所で行われるにせよ、高台など別の場所に移転するにせよ、実在したまちの空間の記憶を留めることは、新たに生きはじめる地域にとっての力になるのではないのでしょうか。これは、ある種の“地誌”のようなものです。

たとえば、3D モデルとすれば風景の記憶（この角を曲がると海が見えた、この場所からは神社の鳥居が見えた、など）もある程度再現することになるでしょうし、2D の地図上で写真などを管理するだけでもその地域の空間性を記録することになると思います。他にもさまざまな方法があるのではないかと思います。

東京理科大学理工学部建築学科

伊藤香織